

<全体分析>

試験時間80分

解答形式
選択式 29 問（記号選択 14 問、年代整序 15 問） 記述式 1 問 論述 10 問 計 40 問

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・**難化**）

大問数は4題となり、昨年度より1題増加した。設問数は 40 問と変わらなかった。記号選択が6問、年代整序が2問増加し、記述が8問減少した。論述は設問数も同じであったが、全体の字数は昨年度の 20 から 21 行に増加した。試験時間 80 分に余裕があるとは言えない。

出題の特徴や昨年度との変更点
論述問題が他学部に比べて突出して多い。また、史料・グラフ・地図などの資料を用いた出題が多くを占める。

その他トピックス
今年度も知識ではなく、資料を読み込んで解答する思考力を問う形の論述問題が出題された。大問Ⅰの問1と大問Ⅳが世界史と共通問題であった。歴史総合に関する問題は大問Ⅱの問13で出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	記号選択 年代整序 論述	関税からみる近現代 《史料・地図》	問2の史料が何を示していたかの判別はできても、aの時期の特定に悩んだかもしれない。問3の「朝廷の対外方針に与えた影響」から条約勅許は導きたいが、その背景を論じることやや戸惑っただろう。	やや易
II	記号選択 年代整序 論述	大内兵衛が生きた時代 《史料・グラフ》	問6の「市制・町村制」の内容を説明するのは難しかった。問9①はやや難。スミソニアン体制構築前の一時的な変動相場制を指摘できただろうか。問11の「東京女子師範学校」の設立時期は難。問13は東西両陣営の共同防衛組織が設立された「経緯」を西ドイツの動向に触れつつ論じる点がやや難しかった。	やや難
III	記号選択 年代整序 記述 論述	中曽根康弘が生きた時代 《史料・図版・地図・グラフ》	問14は工場制手工業と問屋制家内工業の「違い」に焦点を当てて答案を作成する必要があった。問16のbは史料の読み取りに加え、「ヤルタ」の位置の判断に悩んだかもしれない。問19は、全国市街地価格指数の頂点の時期がヒントとなるが、グラフが読めても、b・c・dの時期を明確に判定するのは難しい。	やや難
IV	論述	近現代の貿易と産業構成・為替相場の影響 《史料・グラフ》	問21はグラフから読み取った内容を、産業構成の変化と関連付けて表現することが難しかった。問22は設問に付帯する条件が多く示されていたため、解答の方向性は想像しやすかったと思われるが、特にグラフのポンド・円相場の情報をどのように答案に盛り込むかの判断に悩んだだろう。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

歴史総合の要素などを含んだ問題はみられるものの、大半は標準的な知識もしくはその応用で正解が導き出せる問題なので、教科書の内容を史料・地図なども含めて確実にマスターしておきたい。また、未見史料やグラフ・統計などの資料対策として、過去問などの演習を通じて思考力・判断力を身につけていってほしい。さらに、歴史の因果関係を踏まえた学習は、年代整序問題はもちろんのこと、グラフの時期特定問題や論述問題にも役立つだろう。平易な論述問題は確実に得点できるように、普段から訓練しておきたい。